



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	綿末 翔 (わたすえ しょう)
■ グループ名	
■ 学校名	大分県立杵築高等学校
■ 学 年	1 年
■ 年 齢	1 5 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	綿末しのぶ (母)

■ レポートした場所	杵築市八坂中村付近の八坂川
■ レポートの題名	河川改修工事って、こんなになっちゃうんだ！
■ 内 容	<p>八坂川は大分県杵築市の中心を流れる川です。私たちはこの川の水を飲んでいますが、昔から、洪水の起こる暴れ川で、田んぼや畑に豊かな土を運んでくれますが、人や家畜が流されたり、家が水没したりして、大きな被害も与えてきました。</p> <p>昔は私が通っていた八坂小学校にはプールがなく、夏になると大人の人が出て、川の中にプールを作り、そこで水泳をしていたそうです。また、きれいな川には大人だけでなく、子どももアユやハゼをつったり、川のウナギをとったり、カニを採りにいったりして、ご飯のおかずに使っていたそうです。</p> <p>もっと前（鉄道が敷かれる前）には杵築市の特産品の七島藺（畳表）の運び出しに船を使っていたそうで、改修前の川には船着場の跡もありました。</p> <p>私が小学校5年のときに八坂小学校の八坂かっぱクラブに入り、八坂川を探検する活動が始まりました。</p> <p>そのとき川は3ヶ所で大きく蛇行し、たくさんの河畔林が生え、カワセミやカモやシギ、チドリ、サギなどたくさんの鳥がいました。また、カワウのコロニーもあり、一番下流の蛇行しているところのそばの小さな丘（丸山）はカワウの糞で、雪が降ったように真っ白になっていました。河川改修のときに蛇行しているところの水を抜いてみて、初めてたくさんのヤマトシジミがいたり、きれいな湧き水が出ていたりするのがわかりました。</p> <p>河川改修は洪水をなくすためにずいぶん前に計画されたものだそう</p>

で、今の法律ではもう蛇行した川をまっすぐにはいけないうことになっているそうです。2001年の春に川の工事は終わりましたが、川のまわりに生えていたたくさんの木も切られてしまい、私の友達が、工事の前、木がたくさんあったときには聞こえなかった JR の列車の音が聞こえるようになり、うるさくなったと言っています。

川の工事が終わって、のっぺらぼうの川になってしまい、カワセミもいなくなりましたが、堤防が整備され、人が歩きやすくなったりと、階段がついて河川敷まで降りやすくなったので、多くの人やマトシジミをとり川に行くようになりました。改修の前とは比較にならないほどに少なくなっているのに、たくさん採れるという人の話を聞いて何だかおかしいなと思っています。

新しい川になって、母はときどき川に出かけてどんな風に川が変わっていくのか調べに行っています。だんだんマトシジミが大きくなっているとか、アシヤガマが流れてきたとか、河川敷が固くなるとか教えてくれます。

前の川のように河畔林がたくさん生えて、鳥がたくさん来るような川になるまで、何十年かかるかわかりませんが、そうなってほしいなと思っています。今、北海道など、日本各地で埋めてしまった蛇行した川の流れを復活する計画があるそうです。私たちの八坂川も将来、元の流れを取りもどせるといいのと思っています。



蛇行していた八坂川の様子



現在の八坂川の様子



上は改修後の川の様子。現在はここでヤマトシジミを採る人が多い場所。

左は改修前のほぼ同じ場所。河畔林が多く、鳥もたくさん見られた。